



学校教育目標 進んで学ぶ子 仲良くできる子 たくましい子
児童数 男子488名 女子461名 計949名

㊦っかりと聞き・㊦くわく未来を語り・㊦すんで学び・㊦れにも仲良くできる しわすだっ子



一人ができるようになってくると ～ 室伏広治氏の言葉 ～

校長 石井 宏明

「(直前の授業の時より)動きが20%増しで、よくなってるなあ」
「ボールをよく動かせるようになったなあ」(ボールが止まらなくなってきたぞ)
「いい山なりシュートを打てる子が増えたなあ」
「ゴールマンも、難しいボールをよくキャッチしているぞ」
「ゲーム後もいい表情をしているな、いいぞ」

10月26日に行った4年生の学年体育大会で感じたしわすだっ子の素晴らしさ。
保護者の皆様にも、子供たちがチーム、クラスの勝利を目指してポートボールゲームを楽しんでいる姿に熱い視線、声援をお送りいただき、誠にありがとうございました。

「目標が高くなれば、意識も高くなる。一人ができるようになると、みんなができるようになってくる。」
室伏広治氏(スポーツ庁長官)の言葉です。

普段の体育授業でも、できた子がよいお手本になってくれたり、できた時のコツを教えてくれたりしてできる子がどんどん増えていきます。いえ、体育だけではないですね。国語でも、算数でも、音楽や家庭科でもそうです。

また、「周りを見ながら余裕をもって取り組む。それが「集中」だと思います。集中というと、一つのモノにギューっと入り込んでいく姿を想像しがちですが、そうじゃない。視野を広くもって、のびのびしている状態。それが理想です。」

ゲームをしている時の、あるいはクラスの他のチームを応援している時のしわすだっ子は、正に「集中」していました。強い口調で「集中！」などと言ってはダメなんですね。

すでに実施した2年生も4年生同様に、よい「集中」ができていました。

「さまざまな人のアドバイスに積極的に、耳を傾けるということも心がけています！自分の殻には閉じこもらないことですね。」

「僕にとってのベストな結果というのは、成績の良し悪しだけじゃありません。毎試合ごとに伸びている自分を感じていくことが重要なのです。」

今後も、感染症拡大防止対策をしっかりと講じながら、子供たち一人一人が伸びている実感、その教科、活動の魅力を味わえるような授業、教育活動をしくんでいきます。

10月の校長講話でも、池江璃花子選手の言葉を引用し、スポーツは、「感謝」「勇気」「絆」「希望」をはぐくめる。とお伝えいたしましたが、トップアスリートの言葉には学ぶべきことが多いなあと、子供たちの成長している姿を通して、改めて感じております。